

「地域創造コース」 ～地域の活性化に挑む学校～

<持続可能な地域を目指して、地域社会とシームレスに繋がる学び>

- ・地域密着型の活動により、様々な人たちと協働する将来の地域の担い手を育成
- ・プロジェクト型学習により、1つではない答えを求める課題解決力の育成
- ・地域の各分野のプロフェッショナルとの活動を通して、長期的なライフキャリアの育成

【コースイメージ】

- 「地域＝自分たちの生活に関わり文化へ影響を及ぼす範囲」を舞台にプロジェクト型学習を展開
→多様な文化・環境を育んできた浜松だからこそ学ぶことができる多彩なクエストエデュケーション
- 芸術科（音楽・美術・書道）といった芸術との協働が生み出す新たな価値観と多様性
- 自分たちの生活に結びつく「衣・食・住」の視点からの魅力発信と、
様々な企業や団体と協働し高校発のイノベーションを目指す(SBPソーシャルビジネスの観点)

様々な視点からのホリスティックにとらえる地域観

楽器・ものづくり農業・伝統文化…産業や芸術としてのこる多様性がつくる地域文化
フィールドワークやプロフェッショナルとの出会いから築く郷土への誇りと郷土愛

魅力の見える化
人をつなぐ化

衣

地場産業の活性化
繊維産業との協働
(取り組み事例)

浴衣シャツの製作
(白井商事)



浴衣染色
(二橋染工場)



食

地産地消の促進
農業や飲食産業との協働

(取り組み事例)
・浜松ベジタブルとの
熊本支援交流や
地元野菜のPR活動
(浜松ベジタブル)

天浜線おにぎり
(柚露)



還元
提案

住

住環境の改善
林業との協働
街並景観への関わり

(取り組み事例)

天浜線各駅ポスター
(天竜浜名湖鉄道)



・地元木材を利用した
製作活動
(永田木材)

提案
還元

提案
還元

持続可能な地域の創造

- ・魅力発信
→浜松市の公認プロジェクト実施
(浜松青春応援隊として活動中)
- ・高校生発のイノベーション
→シャツブランド(美縫)の立ち上げ

【3年間のロードマップ】

1年	2年	3年
コネクションゼミ(各分野のプロとのワークショップ)	学年横断型プロジェクト	進路への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・地域を学ぶ体験学習 (フィールドワークとワークショップ) ・小プロジェクト実施 (身近な課題への課題解決学習) ・地域内での宿泊調査活動 (アイデアソン形式の魅力化活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト型学習 (チーム編成による企業との協働 →クエストエデュケーションを実施) ・地域調査研修旅行として短期型の プロジェクト学習を実施 (他地域の生徒との協働学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト型学習 (学年横断型の協働学習を推進) ・進路実現に向けた取り組み
11月成果発表	11月成果発表	11月卒業発表

ふりがな	がっこうほうじん しんあいがくえん	ふりがな	はまつがくげい こうとうがっこう
管理機関名	学校法人 信愛学園	学校名	浜松学芸高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名： 学校法人 信愛学園

代表者名： 服部 泰啓

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名： 浜松学芸高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名： 内藤 純一

2 取組内容

将来的に地域の発展を担う人材を育成するために、地域の課題に主体的に関わる活動を通じて協働して問題解決にあたる生徒を育成します。

本構想においては、初年度を「地域創造コース」立ち上げのためのカリキュラムや教材開発期間と考えています。普通科の新しいコースとして地域魅力化に取り組むために、地域を学ぶESDの視点を取り入れた各教科横断型のカリキュラム構成を計画していきます。さらに、コースの前身となる社会科学部の生徒を中心に、地域企業との協働による課題解決学習やアイデアソン形式のフィールド研修などの実践研究を行い、コース立ち上げ後に実践する内容の精査・検証を行います。2年目をカリキュラムの実践・修正と地域の魅力を可視化するフィールド調査や様々な職種との協働学習を行います。3年目に地域の企業や団体と協働したクエストエデュケーションの実践例と、他地域との協働による生徒の魅力化活動の実践例として研究成果をとりまとめます。

「地域創造コース」は地域の魅力を発見・発信するだけでなく、高校3年間を通じて地域の産業や人々と協働する活動に取り組みます。課題解決型学習では、地域のプロフェッショナルな方々との繋がりを生み出す講義と活動を組み合わせた授業を行い、地域の人材と生徒との「つなぐ化」を実践していきます。さらに、様々な現場の見学や独自のフィールド調査を実施し、実際に見て・体験して感じた地域の魅力の「見える化」とともに、課題を明確にする取り組みが必要と考えています。そこで、地域の企業や産業界から、生徒に課題をいただき、その課題についてプロジェクト単位で企業の方々と意見交換やプレゼンテーションを行って製品やイベントなど形にしていく「クエストエデュケーション」を高校2年～3年生にかけて実施します。プロジェクト型学習はすでに実践されている学校も数多く存在しますが、地域の持続的な発展のために具体的な活動へつなげる必要があると考えました。クエストエデュケーションは大手企業のCSR活動として実践されている例はありますが、地方の企業や産業と実際に協働し実践されたケースは、ほとんど聞きません。このような活動を通じて、地域に対する理解や誇りを回復することを目指しています。また浜松市北部でのフィールド調査研修だけでなく、修学旅行を熊本県での地域調査研修旅行とし、訪問地域の魅力化調査や現地生徒と協働した短期解決型プロジェクト学習を実施します。自分たちの地域を内側から見つめるだけでなく、外側からクリティカルな視点で再認識し、持続可能な地域のために一つではない答えに向けての取り組みを行います。

<研究のグランドライン>

初年度 (2019年)	2年目 (2020年)	3年目 (2021年)
<ul style="list-style-type: none"> 「地域創造コース」新設に向けたカリキュラム作成 これまで地域と協働してきた活動の検証と教材化 1年生段階での地域内宿泊調 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の各分野のプロフェッショナルへの「つなぐ化」の実践 ワークショップやフィールド調査による地域魅力の「見える化」 プロジェクト学習による、協働活 	<ul style="list-style-type: none"> 協力企業と連携したクエストエデュケーションの実践 地域との連携活動の生徒成果および研究成果発表 熊本への調査研修旅行におけ

査活動の試行と検証 ・2年生段階での修学旅行の調査研修旅行化の試行と検証 (熊本の高校生との協働活動) ・初年度の成果発表	動のアイデア形成と具現化 ・カリキュラムや実践内容の検証と修正 ・地域内宿泊調査活動の実施 ・2年目の実践成果発表	る現地高校生との協働活動 ・研究指定後の活動持続に向けた検証と分析 ・研究成果発表
--	--	---

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
学校法人 信愛学園 理事長	服部 泰啓
株式会社サツ川製作所	薩川 敏
遠州ビジネス交流会	水野 久美子
浜松ベジタブル	池田 克信
株式会社 白井商事	白井 成治
永田木材 株式会社	永田 琢也
ヤタローグループ	渡部 尚樹
浜松学芸高校 校長	内藤 純一
浜松学芸高校 副校長	原田 豊治
浜松学芸高校 教頭	内田 敏勝
浜松学芸高校 普通科長	藤井 茂
プロジェクトリーダー (教諭)	大木島 詳弘

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

持続可能な地域を目指して、地域社会の発展に貢献する生徒を育てていきます。地域との協働を通じて以下のような地域人材の育成を目指します。

- ・地域密着型の魅力発見活動やプロジェクト活動により、様々な人たちと協働する将来の地域の担い手となる生徒
- ・地元企業とタイアップしたプロジェクト型学習により、1つではない答えを求める課題解決力や企画実行力に取り組む生徒
- ・地域の各分野のプロフェッショナルとの協働活動を通じて、地域との関わりを長期的なライフキャリアとしてとらえることのできる生徒

本校では、生徒たち自らが地域のために何ができるのか考える姿勢を育みたいと考えています。プロジェクト解決型の学習活動を行うことで、1つではない答えに主体的に向き合う課題解決能力を育成します。こうした協働活動の中で、多数決による民主主義ではなく、相互が納得いく方向に向けて共にねばり強く考えることができる将来の地域の担い手を育みます。新設するコースでの学びを通じて、将来、生徒自らが地域にどう関わるのか、そしてどう貢献するのか、長期的なライフキャリアを形成する場として機能する地域のための学校となることを目指します。活動の成果を地域や企業の方々に報告・プレゼンテーションし、地域への還元をはかるとともに、学外の方から企画実現への評価や助言を受けることが大切だと考えています。こうした活動を通し、卒業後に地元に残るだけでなく将来的なUターンを促し、地元定着率の向上につながる地域に根ざした学校を目指します。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

コンソーシアムは、生徒の活動を社会に還元するために調査や活動内容を第三者の視点から評価・助言する役割を担っています。時に生徒のアイデアは地域の現状に即していなかったり実現性が低かったりします。こうした状況に対して適切な判断や評価を行うのが、コンソーシアムのメンバーの役割となります。1年生時の地域魅力の「見える化」や地域人材と「つなぐ化」、高校1年生時のプロジェクト型学習や高校2年生時のクエストエデュケーションにおいて、高校

生にとって適切な課題やカリキュラムを提供する必要があります。この地域社会と協働するカリキュラムや具体的な教材化について、学校とともに研究する重要な役割を担っています。さらに、生徒が取り組んだ成果を発表する場として、異業種交流会などの場を提供し還元をはかる役割を果たします。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

カリキュラム開発等専門家として、皇學館大学の岸川政之 教授の指導・助言のもと、地域の現状に即した課題に取り組むカリキュラムを検討します。これまで、2017～2018 年度にかけても岸川教授とはSBPの観点から本校社会科学部の地域の魅力発信活動に指導・助言を頂いており、本校活動とつながりのある立場から本校教員とともにカリキュラム開発を行います。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習のために地域事情に詳しい元本校教諭1名を専任として委託し、地域とのコーディネーター役を担当します。現在、コースの前身となる社会科学部が地域との協働を進めています。地域創造コース立ち上げに向けては、この協働を発展的に継続していきながら、特に浜松市北部の山間地域との連携を中心に、新たな連携先と学校との橋渡しを担当します。

(6) 運営指導委員会の体制

運営指導委員会として、学校内にコースの全体検討会議を設置します。メンバーはコンソーシアムを構成する校内の管理者・教員となっています。検討会議で「地域創造コース」の全体ビジョンを共有し、カリキュラムや実施内容の検討、および実践の検証を毎週行っていきます。研究内容がコース内のみの実践とならないよう、学校内で共有や協働する機会を設けます。普通科だけでなく芸術科（音楽・美術・書道）を併せ持つ本校ならではの多様性に富んだ協働活動として、学校全体へ波及するよう調整をはかる機関としての役割も担います。また、研究成果の共有のために、教員全体の研修組織であるT-Labo や若手教員の研修組織のYouth-Laboを通して、実践の検証と目的の共有化を行い、後進の育成に取り組みます。

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

地域創造コースでは多くの地域の方々と協働して地域魅力化に取り組み、その成果を地域へ還元したいと考えています。そこで、地域の方々と生徒の保護者、そして周辺校に向けて、毎年11月に地域活性化の取り組みを成果発表会として行います。また、活動内容を小冊子などにまとめ、成果報告書として配布・閲覧できるように作成します。

地域魅力化の取り組みを学校内の報告発表で完結させるのではなく、外部への発信や評価を受ける必要があります。地域の諸組織との交流計画として、異業種交流会組織である遠州ビジネス交流会と協力し、生徒たちの成果の発表や企画の実現化への協力を仰ぎます。実社会との交流を通じて、本研究の取り組みについて外部評価を受ける仕組みを構築します。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

学校活動において地域との協働を実施する際に大きな障壁となってきたのは、学校が求める地域の人材とどのように繋がるかという問題でした。「地域創造コース」は地域に開かれた学校を目指して様々な地域の方々と連携していきます。生徒の考える地域活性化アイデアや興味関心も日々変化する中で、それに応じた地域の企業やプロフェッショナルと学校を結びつける必要があります。コンソーシアムのメンバーは、この地域のプロフェッショナルと学校における生徒の多様なニーズを繋ぐ橋渡しを行う「つなぐ化」を担う重要な鍵となります。生徒の活動が求める地域人材と学校を結びつけるマッチングを担い、学校と地域社会を繋ぐ重要な役割を果たします。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

新設する「地域創造コース」はESDの観点から持続可能な地域の発展を目指して地域魅力化

に取り組みます。地域と協働する内容は、活動の進展と共に変化していく可能性があるため、その都度、協力企業の見直しは必要になります。しかし、地域の魅力化に取り組む活動そのものの持続性が最も重要だと考えており、研究指定終了後も地域と協働する「地域創造コース」を継続し、将来の地域の担い手を育成していく計画です。その中でも、地域の魅力を反映した商品の開発や企画化は企業との協働が欠かせません。高校生が自分たちの地元にどのような関わりができるのか、ビジネスの視点で将来の地域の担い手を育成する取り組みを続けていきます。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	はままつがくげいこうとうがっこう				②所在都道府県	静岡県
2019～2021	①学校名	浜松学芸高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科：特進コース 216名 地域創造コース（新設）40名	
普通科						芸術科：音楽課程 30名 美術・書道課程 40名	
地域創造コース	地域創造コースは2020年度より開始のため、19年度は部活動生徒約30名で実施						
⑥研究開発構想名	「地域創造コース」による地域の活性化に挑む学校						
⑦研究開発の概要	地域創造コース」では、地域を学ぶESDの視点を反映した各教科横断型のカリキュラムで、地域の魅力化にむけた協働学習を行います。活動を通して地域の人と生徒を「つなぐ化」、地域の魅力の「見える化」に取り組みます。地域の企業と協働してクエストエデュケーションを実践し、地域の課題に主体的に関わり協働して問題解決にあたる生徒を育成します。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型の魅力発見活動やプロジェクト活動により、様々な人たちと協働する将来の地域の担い手を育成する。 ・地元企業とタイアップしたプロジェクト型学習により、1つではない答えを求める課題解決力や企画実行力を育成する。 ・地域の各分野のプロフェッショナルとの協働活動を通して、将来的に地域とどう関わるのかを考える長期的なライフキャリアを育成する。 					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>静岡県は社会的要因による人口減少が進んでおり、将来の地域の担い手が減少することが危惧されています。産業の街・ものづくりの街として発展した浜松市は既に産業の空洞化が進んでおり、将来を担う若者たちが地域の魅力を的確に捉えていないのではないかと危機感を抱きました。こうした地域の問題に対してESDの観点から取り組み、生徒自らが地域の魅力を発見することで、地域への誇りを持つことができるようになると考えました。</p> <p>地域の魅力発見・活性化に向けて、生徒たち自らが地域のために何ができるのか、単に地域について調査し学ぶだけではなく、地域社会に参画する姿勢とアイデアを形にする力を養う必要があると感じています。そこで、プロジェクト解決型の学習活動を行うことで、1つではない答えに主体的に向き合う課題解決能力を育成していきます。こうした協働活動の中で、多数決による民主主義ではなく、相互が納得いく方向に向けて共に考えることができる将来の担い手を育むことを目標とします。地域を題材とした課題解決学習を通じて、将来、生徒自らが地域にどう関わるか、そしてどう貢献するか、長期的なライフキャリアを育成する場として機能することを期待しています。</p>					

⑧
-2
具
体
的
内
容

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

地域の文化や産業を、多面的・多角的にとらえるために、地域について学ぶ活動を様々な教科から行います。持続可能な地域の形成のために、E S Dの視点を盛り込んだ授業を教科横断的に実践します。具体的には、衣食住の観点から地域を題材に扱える内容を各教科で取り入れ、地域文化の理解に努め、芸術科とも連携してアイデアを形にする教科横断型の取り組みを行います。さらに地域でのフィールド調査研修や熊本での調査研修をアイデアソン形式で行い、地域の魅力を内側だけでなく、外側からもとらえる視点を養います。

また、地域の企業や産業界との協働によるプロジェクト型学習を実施します。実際に様々な現場に出向き、見学・交流やフィールド調査、各分野のプロフェッショナルによる講演とワークショップなどを行います。さらに、企業との協働によるクエストエデュケーションに取り組み、アイデアを形にするプロセスを学び、実行力を身につけます。様々な体感を通じて、ものごとの本質を考えるクリティカルな思考を養うことを目指しています。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラムの開発については皇學館大学の岸川政之 教授の指導をもとに取り組みます。各教科における地域を学ぶ内容の教材化や地域協働の新設科目での実施内容や先行実施した活動の効果について、コンソーシアムのメンバーによって検証を行います。特に新コース立ち上げとなる 2020 年は新設科目の授業公開と共に、各教科で実施するE S Dの視点を取り入れた研究授業を実施し、教員間で実践内容の検証を行って、カリキュラムのブラッシュアップを図ります。

(3) 必要となる教育課程の特例等

特例事項無し

本校では 2017 年度より地元企業と協働した地域の魅力発信を、社会科学部地域調査班で実施してきました。地域のローカル鉄道である天竜浜名湖鉄道・県立森林公園の魅力発信やカレンダーなどの商品化に取り組んできました。2018 年には浜松市の魅力発信の公認活動「青春浜松応援隊」（通称：アオハル隊）に認定され、さらに 8 月に行われた第 3 回全国高校生 S B P 交流フェアでは第 1 位に相当する文部科学大臣賞を受賞しました。こうした地域を舞台とした探究活動や地域との協働の実績を発展させ、「地域創造コース」の新設にいたしました。少人数の部活動からクラス単位の活動へ、さらに学校から地域の周辺校へ活動が波及することを期待しています。

<主な活動の掲載>



▲天竜浜名湖鉄道のPR活動(静岡新聞)



▲浜松市の公認活動(静岡新聞)



▲文部科学大臣賞の受賞報告(静岡新聞)



▲浴衣シャツツの取り組み(日経新聞)

⑨その他
特記事項